



岐蘇林多

目次

- ▲研究
入學志願者並に父兄諸君の爲に
化學應用彫刻着色法
- ▲文苑
小品文
和歌
- ▲通信
學校記事
- ▲雜報
編輯餘錄

(明治四十二年七月十日)
第三種郵便物認可

(每月廿五日)
定期刊行

第七拾六號

大正五年二月二十五日

生徒募集廣告

來四月本校第一學年(ニ)入學スベキ生徒約五十名募集ス入學手續ハ左記ノ通り
大正五年二月

長野縣立木曾山林學校

○入學手續

本校ニ入學セントスル者ハ入學願書ニ履歷書戸籍謄本及體格検査書ヲ添ヘ來ル三月廿日迄ニ差出スベシ其様式左ノ如シ

入學願書(用紙美濃紙)

某儀

御校へ入學志願ニ付御許可被成下度履歷書及身體検査書相添此段願上候也

年月日

何府縣何郡市町村何番地居住

何府縣族稱誰子弟

入學志望者 何 某印

同上

右父母後見人 何 某印

長野縣立木曾山林學校長七宮純雄殿

履歷書

本籍、何府縣何郡市町村番地族稱
戸主又ハ誰子弟寄留地何府縣何郡市町村番地

何 某印

生年月日

學業

一、何年何月ヨリ何學校ニ於テ何年修業若クハ卒業(證書ノ寫ヲ添フベシ)

一、何年何月ヨリ何年何月迄何處何某ニ就キ何學ヲ修ム

賞罰

一、何年何月何處ニ於テ何事ニ付賞又ハ罰

右之通りニ候也

年月日

身體検査書

本籍 何府縣何郡市町村番地族稱

寄留地 同上

何 某

生年月日

一、體格 一、身長 一、體重

一、胸圍 常時 充盈 一、視力 一、痘
空虛

年月日

何病院長又ハ開業醫何某印

入學志願者並に父兄諸君の爲めに

校長 七宮 純雄

愈々入學志願者募集期になつたので當校でも別項廣告の如く募集して居る各位の甚大なる御援助によりまして東北地方より四國九州朝鮮方面に亘り或は學則を請求し來る者或は種々なる事項を掲げて詳細なる回答を求むる者等々其數を増加し従つて各方面よりの入學者數を増加するに至りしは確かに世人の注意する所となりし結果にして吾人其職に在る者として實に快心の情禁ずる能はざる者あると同時に其責任の益々重且つ大になりしを覺ゆるのである。且つ其内容を紹介する必要ありと信じて來諸方面より問ひ合せになりし事項を參照して新たに入學せんとする者並に其父兄諸君の爲めに左に一言を述べて以て聊か參考に供せんとするのである。

現在どんな生徒が居るか
學則に定めてある定員は約百五十名としてあるが現在に於ては第一學年五十三名第二學年四十名第三學年四十八名で合計百四十一名居る而して此百四十一名の内で本縣人

が九十四名で他府縣人は四十七名であるから丁度二と一の割合になつて居る他府縣では岐阜山梨群馬山形福島靜岡愛知三重石川富山福井岡山鳥取愛媛高知山口福岡の十七縣下で就中岐阜縣は十七名の最多數を占め山梨縣からは七名來て居て其次に位して居る

然らば年齢はどうであるかと云ふに學則では最少限滿十四才と定めてあるが最多には制限がない以前は三十才以上で入學したと云ふ特志家もあつたと聞いては居るが近頃には今は現今第一學年では最少十六才で最多が二十四才平均十八才餘第二學年では最少が十七才で最多が二十四才平均十九才餘而して第三學年では最少十八才最多が二十才平均二十才餘になつて居る。當校では二十才以上で入學する者は年長者の部類十五才才で入學する者は年少者の部類と稱すべきであるから以後假りに其意味で年長者年少者の名稱を用ゆることとする

年齢が斯く種々雜多であるから勢い入學前の履歷に於ても一定してないのは實に止むを得ないのである。今試みに現在生徒の履歷を就て調べて見るに高等小學卒業の者八

十六名小學校教員並に同免許狀を有する者二十二名中學校並に同等の學校或は塾に在學せし者五名其他九名となつて居る此の高等小學卒業の者八十六名ではあるが年齢から見てもすぐ解る通り卒業後直ちに入學したのは僅かに三十名内外で他は短かくも一二年間は何かの業務に従事して居た者である。過去現在の例によると中學校の四年級から入學した者などは最高のものである。役人としては郡書記村の収入役を勤めし者或は郵便局の通信事務員などもあつて履歷の複雑して居るは事實である

以上のお話を聞いた丈けでは年齢の少ない氣の弱い志願者は申すに及ばず其父兄の方々に至るまで定めて吃驚せられて一時は志願して見様入學させたいと思ふて居た人までが茲に全く斷念しないとも限らぬ又た之れは一應無理からぬ次第とも存せらるゝのである
抑も前述の様に年齢に於ては七ツも八ツも違つて居る者入學前の履歷學力に於ても非常なる懸隔ある者を一堂に集めて一様に教育することは餘程骨の折れること勿論其効果の程も同年同種の者を教育するの比でないかもしれぬ従つて單純なる教育者側か

から見れば批難の点も定めし多いことと思はれる併し之れは林業教育と云ふ特殊なる教育上寧ろ目下の當校の教育制度上實に止むを得ざる点あるを以て常に之れ等に依つて生ずる弊害の免除と美点の助長とに留意し聊かも遺憾なからしめんことに努力して居るのである

何故卒業後直ちに自家經營の林業に従事する者少ないか

先づ當校に入學する生徒は一體如何なる希望を抱いて居るか云ふことを調べて見るに從來の卒業生三百五十五人中自宅にありて家業に従事して居る者は約六十名に過ぎない而して此家業に従事して居ると云ふことは誠に漠然として居りますがよく之れを調べて見るに大部分林業に全く縁故のない方面に活動して居て直接自家所有森林の經營に當つて居る者は殆んど皆無と云ふ状態である將來と雖ども必らずや此種の入學者を多數得ることは到底不可能のことと思ふ然らば残りの大部分の卒業生は如何と云ふに悉く已修の學藝によりて所謂森林技術者として身を立て益々切磋琢磨獨立自尊大に社會國家の爲めに奮勵努力して居るのである依て當校教養の方針としても大に此邊の注意を怠らぬのである

此卒業生の大部分が或は諸官廳に或は會社大資本家に備聘せられ郷關を去るが如きは地方林業界の爲め何等益する所なく縣立の實業學校として誠に不都合千萬である。云ふ様な批難の聲が一時あつた様に聞いて居るが併し之れは林業其物の性質として萬止むを得ないのである。何んとなれば當校に於て修得したる學藝によりて所謂合理的の林業を經營せんとするには少なくとも數百丁歩の林地を所有せざるべからず然るに百丁歩以上の森林所有者は地方有數の資産家にして従つて之れ等の子弟は學費豊富なを以て特別の事情ある者の外高等教育を受けるを普通とし此種程度の學校に入る者極めて稀なるは理の當然である殊に當校に於ては戸主長男は常に二割内外に過ぎない点より見るも多くの入學の希望は決して自家經營の林業に従事するのではないことは火を睹るよりも明かである

又林業は所謂百年の長計で其結果は一二年後に容易にわかるものではない然れども百年後に於ては實に雲壤も管ならざる相違を來たすのである。苟くも林業を經營せんとするには周到なる注意と共に十分なる經驗を必要とするのである次に林業は個人の利益と公益とに關係して居る個人の利益

と公益とが一致して居る場合は極めて簡單であるが之れが互に衝突矛盾した場合例へば公益の爲めに個人の利益を犠牲にするの止むなきに至りし場合などには大に面倒になる而して斯る場合は決して少なくないのである。之れ等が郡などの林業技術員諸君に於て大に苦心せられて居る点なそうなこんなことはやつと學校を卒業した計りの十八や十九の者には到底望み得られぬ藝當である。此の十分なる經驗を積むと云ふことは郷黨に重きをなし大抵の難關は切り抜けて行ける丈けに腕を磨き上げる必要上家座の許す限り應ては自家の林業經營をなす者でも或は郷黨にありて地方林業の改良進歩にあたる者でも卒業後は可成他に出て暫らくなりと社會の激浪中に跳び込む必要があると思ふ又實際うれでなければ郷家の林業の爲めあまり効果があるまいと思ふ。それであるからして卒業後他に就職することは強ち悲しむべき現象でない。僕は信んずるのである併し當校創立後日尚ほ淺く其實例を掲げることが得ないのは實に遺憾の極みである

如何なる卒業生が要求せらるゝか
昨年は帝室林野管理局を始め大小林區署朝鮮總督府林業試驗場東北農科大學演習林山

梨縣恩賜縣有財產管理課南滿鐵道株式會社
三井物産會社等十數ヶ所より申込みがあつ
て四十四名の卒業生中三十五名採用された
譯だ殘る九名の内には家庭の事情上絶対に
就職不可能の者が數名居つた何れも申し合
はした様に身體健康學術品行優良なる者を
要することに殆んど一致して居たのである
然れども役所役所により多少輕重がある例
へば身體健康の内でも單に身體健康と強
健なる者として申し込んで來る所もあれば
最近の身體検査表をも請求して來る所もあ
る或は身長體重を通知せよと云ふて來る積
もあれば矮身強度の近視眼はいかぬと斷つ
て來る所もある或は體格概ね左記に適當す
る者たることとして澤山な項目を列べて來
る所もある曰く體質善美にして較著なる疾
患なきもの曰く身體の諸機能具し其機能健
全にして劇務に堪へ得る者曰く視力及聽力
共に完全なる者曰く言語明瞭にして十分の
發聲に堪へ得る者曰く容貌姿勢醜惡ならざ
る者云ふ様な所もある學術優良の内でも
單に成績優良なる者として申込んで來る所
もあれば卒業成績表の添附を要求する所も
ある或は卒業成績平均七十点以上の者とか
或は七十五点以上の者とか或は卒業成績順
位十五番以内に限るとか或は中位以上を希

望するとか色々の要求がある又た品行に就
ても單に品行方正なる者とか優良なる者と
して申込む所もあれば之れに附隨して性格
は何うの如何なる長所があつて如何なる短
所があるとか中々詳細なる回答を求むる所
もある尙此の外志望確實なる者と云ふ様な
條件を附け加へて來る所もあれば全身の寫
眞まで請求して來た所もある或は略ぼ採用
と決定したところで極内々警察官の手で嚴
重なる身元調をする所もある之れには初め
ての者は一寸狼狽すると云ふことだ
年少入學者と雖も決して落
膽するな
當校に入學する者の大部分は卒業後直ちに
他に就職希望の者であつて要求せらる
卒業生は兎も角も身體の強健な學術品行
の優良なる者でなければならぬことは前既
に述べた通りである之れは獨り當校の卒業
生に限らず總て教育を受けたる者の當然具
備すべき要素とも稱すべき者で敢て珍と
するに足らないが此の外に特に卒業後直ち
に林業技術員たらんとする者には年長と云
ふ点で大に便益する場合が多いと云ふこと
である何んとなれば卒業當時は大抵雇員と
して採用され其仕事としては多くは苗圃造
林地に於ける入夫の監督或は入夫を役使し

て簡易なる測量測樹の様な事をやるのであ
る而して之れ等の仕事には年長の者殊に以
前俸給で衣食した經驗ある者などは概して
如才がなくて巧い尙は常識も發達して居る
ので採用してもすぐ間に合ふ兎角學校卒業
生の批難點はすぐ間に合はないと云ふこと
である一寸したことが解らないで給仕連に
まで笑はれて居るこんなことは一般に年少
者で子供／＼した者に多いううだ併し之れ
は勿論絶對的の者でないで年少者でも中
々巧みな者もあれば年長者でありながら一
向役に立たない者もあるううであるから年
少者たる者決して落膽すべからず年長者と
雖も決して誇るべからずである要は唯だ卒
業後すぐ間に合ふ者たらんことに努むべき
である
卒業生は如何に待遇せられ
つゝあるか
當今卒業生は最初雇員として採用せられ此
際月俸は十三圓より十五圓位まで支給せら
るゝのが通例である尤も昨今は二十圓で採
用されたものもあるが特別である朝鮮滿洲方
面では之れに幾分の割増しのあるは勿論
である月俸十三圓や十五圓と聞いては思ふ
た程でもない云はるゝ方もないとも限ら
ぬが併し他に比して決して待遇ではない事

る割合が若干よといと思ふ位である而して腕
次第努力次第でどん／＼昇進して行けるの
であるから將來も極めて有望である當校創
立以來昨年で漸く第十二回の卒業生を出し
たのであるがそれでも月俸四十圓以上の者
餘程居る様に見える朝鮮台灣滿洲等に居る
者は勿論それどころの騒ではあるまい又卒
業後進んで高等の學業を終了した者は勿論
此の限りにあらずである話が一寸進み過ぎ
たので又た後戻りするが最初の月俸十三圓
や十五圓と云ふものゝ多くの者は大抵出張
ばかりして居る伐木所などに入ると此の外
に相當の手當があるがどうせ山の中で使ふ
こともないから手當丈で暮らして居て俸
給はまる残り云ふ甘い話を聞いて居る又
嘗て都會に居る卒業生を訪ねたことがある
立派な旅館に泊つて居るから贅澤過ぎると
詰つた處が其返答が面白い即ち始終出張ば
かりして居る茲に歸つて來て寢泊りするの
が極めて少ないけれど下宿屋では却つ
て困る旅館の方は荷物の一寸した預け賃を
奮發する丈で誠に氣樂で經濟方面もよい
と云ふことである之れなども始終旅館の飯
を食ひながら俸給がまる残り云ふ様な勘
定で前と同様割りのよい事實であるそれ
であるから三月卒業して四月から就職し其
年十二月一日の入營期までに一年志願兵の
費用を貯蓄する者や數年にして遊學の費を

貯蓄し得父兄にあまり此の上の御心配をか
けないで高等の學問を修むる者がいくらも
居るこんな無遠慮極まる俸給談は如何と
思ふたが之れも卑見を述ぶる一材料にな
るから誰れにも迷惑のかゝらぬ範圍内で述
べた積りである
實習は勿論樂ではあるまい
が心配するにも及ばぬ
現在學則に規定してある學科配當は中位以
下の小學校卒業生に對して勿論理想的のも
のとも認められぬが實習も決して樂ではあ
るまいけれども第一學年に於て特に
注意し學科教授に於ては生徒の學力に應じ
可成一般に徹底せしめんことに努めて居る
と同時に實習に際しては生徒各自の體力に
應じ綿密なる注意を以て適度に配當し智力
體力の向上に努力して居るのである之れが
爲めに却つて小學校時代にありては身體健
康ならざりし爲め自然學力にも影響して居
た者が當校入學以來頗る身體健康になり
つて學科成績に於ても大に見るべきものあ
るに至りし例少なくない又一般生徒として
も入學當時の身體検査表と三學年に於ける
身體検査表とを比較對照すれば明瞭である
が實に長足の發達をして居ることがわかる
志願者並に父兄諸君に於て大に安んじて可
なりである
當校演習林も木會の子供等には何んでもな

いが始めての者は吃驚する毎年入學式の翌
日は脚絆に草鞋と云ふ扮装で演習林廻りを
するのが例になつて居る此際木會育ちの入
學生はまるで犬ころの様に喜んで跳び廻る
が他から來た者の内にはぶる／＼する様な
こともある曾つては此演習林廻りでこりこ
りして其翌日逃げて歸つた者もあつた併し
馴れると云ふことは恐ろしい者で始めは一
寸した崖の上り下りにも四つ這になつて歩
いて居た者でも其後毎日教室や寄宿舎の窓
から眺め實習の度を重ぬるに従ひ自然山に
親しむ様になり卒業の頃までには全く平氣
になる此演習林で練習した者は山の仕事な
らざりな山の仕事でも決して驚かぬと云ふ
確信を持つに至る之れはまた他日大に便益
する所となるのである
年長生徒に餘り心配はいらぬ
年長者の内には感ずる所あり發憤して當時
の職業中には相當の地位待遇ありし者まで
も斷然弊履の如く放擲し決然志を立て入
學した者が多い而して入學後は弟の弟より
も若いしかも小學校を卒業した計りの年少
者と伍しエービシーから始め苗圃の草取
り窓硝子の拭き掃除に至るまで眞面目に一
緒になつてやらねばならぬから其決心は尋
常一様の決心では到底出來ないことである
中には小學校で教育した生徒と同時に志願
して兩方共入學したので師弟が學友となつ

たと云ふ例もあるこんなことは高等の學校には珍らしくないかも知れんが此種程度の學校には餘り多くない例であると思ふ之れなども決して並大抵の決心ではないと思ふることで從來の例によると此年長で入學したる者は大抵云はんより殆んど総てが頗る眞面目でしかも斷乎たる決心の色があり、顔に表はれて居つた實に力行不惑であつたのである。これから周圍の者がいくつら騒いでも一向平氣で唯此學校を立派に卒業して見せると云ふ堅き信念の外何物をも見出すことが出来なかつたのである。故に勿論弊風を輸入するとか悪感化を興へると云ふことは毛頭なかつたのである。却つて年少者をよく勞はりよく指導したのが多い現在に於ても將た將來に於ても勿論しかあることとは信するが斷定する譯にはいかんから僻目で見る様なきとはせぬが常に綿密なる注意を拂ふに吝ならぬのである。

將來と雖とも卒業生の需用は決して感ぜぬ

釋名には「山は産なり萬物を産する者なり」とあり韓詩外傳には「夫れ山は萬人の觀仰する所材用生ト寶藏植し飛禽萃り走獸伏す群物を育して倦ます云々」とある日本は六割以上山だと云ふて居るが此の様な山は減多にあるまい我國全面積四万三千餘方里の内棟梁の材より禽獸に至るまで所謂萬物を

産して居る山は幾らあるか實に曉天の星でも云ひたいのであるいやうな産物のない云ふ丈けならまだ我慢の仕様がなれないが木の生ねて居る山がなくなると農作業が丁度赤子の兩親を失ふた様な悲惨な境遇になるのであるから森林は農業の父母なりと云ふ語もあるのである殊に我國の様な急峻なる山國では現に漸々崩壊して來て彼の恐るべき水害の原因をなして居る統計によると何んでも年々三千萬圓の金が之れが爲めに消えて居ると云ふことである金ばからならまだしも貴重なる人命までも奪はれることが少くないので政府でも餘り豊でない財底の底を叩いて愈々治水事業の經營費に二億圓と云ふ大金を奮發することになつたのである。

よばくして居る塊の老國を唯一の味方として世界の富強を以て自ら任じ人も許して居る英佛露等の聯合軍を相手とし有史以來の大戦争を仕掛け一年以上に亘り健闘を續けて居るが未だ一歩も彼等の爲めに潰されず却つて攻勢をとり日に増し勇氣凛々氣焰萬丈最後の勝利を期し世人亦た其判斷に苦んで居ると云ふ敵ながらも實に見上げた獨逸帝國は天惠の極めて薄い國で樹種亦た優良を欠いて居ると云ふことである然るに夫れにも係はらず國民の研究心の強いと堅忍不拔の獨逸魂によりて何處の山を

見ても手本にする様な立派な森林にしてしまつたさあうことで大猿も雷ならずと云ふ程の悪い隣の佛蘭西が獨逸の此の立派な森林を見ては羨しくてたまらないそれで佛蘭西をばす者は敵國にあらずして山林の敵國であるとか木材の欠乏であるとか云ふ様な過激な言で國民の頭腦を刺戟し獨逸に負けない丈けの山にしたいとあせつて居るのも決して無理ではあるまい口ばかりが達者な支那人ではあるが山崩れ川濁るは亡國の徴なりと云ふて御氣の毒ながら自分で其實行を示して居る。

昔から父母の恩は山よりも高くとか或は義は山岳よりも重いと云ふて山は重大なるものゝ代表的の物にされて居つた豈に獨り形態の上から計りではない實に國家の盛衰に關する重大なる任務を有して居るのである興國の機運鬱勃たる獨逸帝國は早くから之れに氣が付いたのである而して之れには何うしても教育の力に俟たねばならぬ實に森林教育は目下の急務であると感じ全獨逸に森林教育の普及したのは今から九十六年に計り前の西曆千八百二十年頃である然るに我國では漸く明治三十年に松野潤氏の獨逸國留學となり明治十五年に東京山林學校の開設となり之れが現今の農科大學林學科の前身であるから方々に高等専門の教育機關があらはれた又一面には中等程度の教育

機關の必要を認めて明治三十二年實業學校令の公布となり茲に甲乙種程度の林業教育機關が殆んど各府縣に表はれた尙ほ農閑を利用して地方青年の爲めに林業講習會なるものが殆んど到る處に開催せらるゝ様になり茲に漸く我國に森林教育が普及する様になつたのである然るに學術的方面に於ては實に急速の進歩をなして居るから餘り大した差もあるまいが効果と云はんか實行の方面と云はんか兎も角も森林其物に於ては遺憾ながらまだ到底彼の比較にならないと云ふことであるよく例にひかれる話ではあるが彼の獨逸國は前に一寸述べて置いた通り氣候が悪く土地が瘠せて居ると云ふ様に天惠の極めて少ない國で加之樹種も優良ではないゆゑにも係はらず國民舉つて熱心に林業に意を用ひ森林になる所は悉く立派な森林にしてしまつた結果一丁歩の森林から十七八圓から四十餘圓平均二十六七圓の純益を擧げて居る然るに我國は山に氣の付いたのも非常に遅いのであるから止むを得ない様なものではあるが斯様に土地は割合に肥沃で氣候は温和しかも雨量が多いから樹木の生長極めて良好である加之優良樹種に富んで居るから林業には他に餘り比類のない適國である然るに中には四十圓以上の純益を擧げて居て稍や吾人の意を強うするに足る吉野の林業地もあるが平均すると何

んでも三四十錢であるうだ立派な技術者が澤山居つて餘程前々から仕事にかかつて居る國有林丈けの純益でさへ平均二三圓を上るまいと云ふことである斯る状態であるからして何うしても日本の林業はまだ、集約にならなければならぬのである換言すれば將來益々教育ある技術者を多く要するのである永い間騒いで居る公有林野の整理であるとか利用開發であるとか云ふ問題は聲の割合には實績が見えない様である本縣の六七ヶ村の村では林業技術者を採用して居るが成績大に見るべきものがあること云ふことで縣でも大に獎勵して居る日本全國に一萬二三千の町村があるがうれが悉く立派な森林を持つ様になるには何うしても中等程度の林業技術者が少なくも一人平均位は必要のことと思ふ現在我國に於て中等程度の森林教育を施して居る學校は二十校計りある而して中には農林合併の教育を施し生徒各自の希望により或者は農業方面に或者は林業界に向ふので年々卒業する確實なる林業技術者を知るは困難ではあるが從來の就職などを斟酌するに年々四百人を出でることと思ふ若し果して然りとすれば町村技術者丈けを供給するとしても今後三十年を要する計算になる況んや朝鮮滿州台灣樺太等の新開地には一層多數の技術者を要するに於ておやである尙ほ南洋方面には護

謨椰子其他貴重樹種豊富にして何れも満面の媚を呈して斯業家の渡來を待つて居るではないか是れ等を考ふると實に此種卒業生の需用は殆んど無限とも云ふべきである但し採用者の要求に適する立派な卒業生であること勿論である

研究 化學應用彫刻着色法

福岡町農會講師 齋藤傳藏氏講

- 潤筆原料
- 第一種 バラビン 該品の効力は腐蝕を防ぐ主眼なるものとす
 - 第二種 カカララク 該品は運筆の自由を謀る効力を有す
 - 第三種 ステアリン 該品は第一種を贊げ腐蝕時間の長きに耐へ得るの効力を有す
- 分量(第一種に對し第二種及び第三種は各容積卅分の一を配伍す)此の三種は何れも無色透明なり、運筆便宜上色を得んとせば舶來の「ブラシアンプリニ」を混すべし又「ピテウム」を用ふるも可なり
- 右三種又は四種混ト陶器に入れ微火力にて稍々沸騰点迄溶解し之れを乾きたる毛筆に着け任意の書畫を木材に揮毫すべし、既に揮毫し終らば、其木材を水平面の位置に据へ以て腐蝕劑を灌ぎ掛け公平に塗布すべし

腐蝕劑の區別左の如し

堅材にして額面其他貴重品を製するには局法硫酸を用ふるを良とす、販賣品又は普通品を製するには純硫酸を用ふべし

備考 凡て化學工藝は晴天の日に於て行ふべし雨雪の日は酸類を稀薄ならしめ着色品等は光澤に支障を生ずることあるべし

木材着色法

一、木材着色は一種の美術にして適宜の色料を普通木材の表面に塗り良材の色澤に擬するものを云ふ其種類多しと雖も重要な種類を左に掲ぐべし

朱檀色

一、唐紅を熱湯にて溶し二回木材に塗りて乾かし其上に「ログード」溶液を塗り尚上に「重コロムサン加里」の溶液を塗りべし若し其色の淡きを欲する場合には唐紅塗の上に直接「重コロムサン加里」液を塗るべし

黒檀色

一、「ログード」の濃厚液と「重コロムサン加里」液と交々(三回以上)數回塗るべし

し、但し塗抹の半途にて塗面に生じたるカスを洗ひ去ること必要なり、

褐色

一、「ビスマークブロン」液を塗り其上に阿仙液を塗り尚ほ其上に「重コロムサン加里」液を塗るべし

茶褐色

一、「クリンキサンゾラック」液を塗り其上に「重コロムサン加里」液を塗るべし但木質に依り阿仙液を中間に施し中和せしむ

黒柿色

一、「過飽和酸加里」液を塗り(五回以上)最後一回「重コロムサン加里」液を施すべし

着色心得

一、凡て着色すべき材料は特に丁寧に削り豫め木賊にて平滑に磨擦し置くを良とす

一、着色の濃淡は液の濃淡と塗抹の回数に依りて加減し得べし

一、塗抹の回数を重ねるには毎回前回塗りたるものの充分に乾燥したる後に於てせざれば効力少なし

一、既に適當の色を得るに至らば一旦木材を水にて洗ひ布巾にて能く拭ひ塗面のカスを去り且つ乾くを待て磨擦し光澤を發せしむべし

参考

一、樺材に着色するには最初木材に酒を吹きかけて乾かし又阿仙液を塗り又乾かし然る後着手するを正則とす

貴重品は如斯して後着手すべし

木材着色参考

一、木材堅密にして單仁性に富む木材に「石灰」を溶きたる硫酸鐵の溶液とを交互に數回塗抹して陰乾とし其上を布巾にて研き上げ蠟にて光澤を着ければ恰も栗色の如き雅緻あるものを得べし單獨「重コロムサン」液を塗るも雅緻あり

一、桑椹栗等の如き單仁性に富む木材に石灰を溶きたる液を數回塗りて陰乾しとなし蠟にて光澤を着ければ雅緻ある物を得べし

着色すべき木材にて堅きものは名倉砥の如きものか然らざれば磨研紙木賊掠の葉等に充分表面を平に研き置くべし

神代杉、神代樺、着色浸透及浸漬法等は席上に於て詳細説明し實行を遂ぐべし

竹細工概要

一、原料 竹細工用として最も適當なるものは苦竹、淡竹、篠竹なり是等は凡て生竹の方細工に便なり若し乾燥せる竹を用ふる時は使用前數時間若くは一夜間水又は湯に浸して用ふべし

二、研磨料 これには金剛砂を布に付けたる磨研布と硝子の碎粉を紙に着けたる磨紙、木賊等あり竹には磨研紙を良とす

三、着色材 細工の表面に着色するには「硝酸」アンモニヤ「硝酸汞」及び蠟等を要す

竹材着色法

一、硝酸着色 硝酸着色をなすには先づ竹の表面を奇麗に研き上げて其上に硝酸を塗るべし色を適度に止めんとするときは硝酸を塗りたる上に「アンモニヤ水」を引きて硝酸を中和せしむべし

一、硝酸汞着色 前者と同様竹を研きたる上に硝酸にて斑点杯畫く時は奇麗なる模様を得べし、

一、蠟にて模様出し 蠟にて竹の表面に模様を書き他の部分に硝酸杯塗りて蠟を取り去れば蠟の下だけ素地色の模様となるべし

樺材料に着色を施し桑色に見する法

一、硫酸鐵 五匁位を濃き茶にて溶き之れを樺板に塗り日陰乾の後石灰を濃き粘の如くにし又之れを塗布し一夜を経て翌日右の石灰を拂ひ落し其上に阿仙藥五匁位を茶にて溶き又之れを塗り能く乾きたる後布巾にて能く拭ひたる上に蠟を少し許り布巾に付けて磨くべし

但し以上は板一間四方に着色する分量なり

右は静岡地方の物産として各地に需要せらる

る、鏡臺針箱等皆此れなり、又静岡地方より産出する箱類の材料は大島、八丈嶋其他の嶋嶼より産する天然桑の材料を尊重す、然れども當時此天然桑に代ふる材料は富士山に産するキハダの材料を用ふ、而して此のキハダに着色して烏桑に模するには左の如くすべし

阿仙と硫酸鐵とを同時に混じ煮て塗り乾燥したる後「重コロムサン加里」液を施すべし

着色浸漬法

一、木材は栗椹、柿等適當なり

一、塙「クロボク」と云ふ(瘦地の黒土なり)

一、松煙

一、石灰

右塙に對し各百分の一位を混じ泥狀となし木材を浸漬す可し日時経過に隨ひ人造埋木となる

着色浸透法

一、クリスタルピオレット (赤) 壹匁

一、クリツドブリュー (青) 貳匁

一、クリツホヂンブラック (褐) 七匁

右水五升の中に入れ竹木を煮るべし一時卅分間に一厘の割合を以て浸透す、以上



小品文

○墓地の夕

風なき静けき夕、われはひとり家を立ち出で散歩にと出でぬ。

山の端近き夕陽は青き空を紅に染めて鮮かなる光りは野にも山にも漲り、村より村へと張られし電線は所々純銀と光りて續けるなりき。遙か野末は茫として夢と霞みさながら夕は其處より涌き出づるが如く見ゆるなり。

われはあたりを見廻しつ、小川の岸邊に沿ひて歩き、畦道傳ひ麥芽の緑をなつかしきなどして居たりしが、ふと幽遠なる森の麓に残る小高き丘を見て突然うこへと足は向きつ。畦より畦を傳ひ、斜陽に煙る森の小道を分け、朽葉に埋れる石段を登り盡せば丘の上は墓地なりき。立ちならぶ墓石、枯草若杉はろをしよんばりとめぐりて樹の間洩れにし日の光りは點々と、其の上に影を落

すなりけり。
黙々として大地に横たはる夕の墓地の静寂
よ。われは曲りくねれる松の蔭に枯草敷き
て足投げ出しぬ。其の時恰も落日は赤くし
みくくわが爪先の上に喰ひ入りて居たり
しが、やがて、わが足に登り傍の草の葉に
しばしたゆたふと見る間に、胸、肩、松の
木梢と次第にうつりぬ。
静かなる夕の色は、あたりを罩めぬ、願み
ればいつしか山の上の残照も褪めはてたり
われは見廻しぬ。こゝには累々たる墓石が
人の終焉を語りてあるなり。
あゝ日は夜が明くれば再び出づるならん、
されど人は一度墓穴に入れば一切寂滅、全
くの終極はそこに來るなり。昔よりの幾千
万の人々今何處にかある、あゝ人は何處よ
り來り何處に行くべきかも、如何にして生
るべきかも知らず自然より生れ又自然に歸
じ去るなり脚下の草や犬と同一に。自然の
大法則以外に人は一步が出づること能はざ
るなり。
思へば爵位も、功名も、權力も、富貴もは
た何の權威かありや。雄名百世を掩ふ大英
雄も、現世の榮華にあける帝王も、白ばら
の如き佳人も、背後にびそむ冷やかなる死

を如何ともする能はざるなり然して此の生
は遺傳、周圍、傳説、習慣是の如きものに
全く支配せられて續けらるゝより外なきな
り。
あゝさらば人は何の爲にか生れ來し。
ふいと首をもたぐれば夕空は光りと匂ひを
一杯にしたゞらしてほゝるみつゝも悠久永
遠の平和を語りてあるなり。
何の謎？われは思はずもちいと見入るなり
き。
.....(終り).....
○河岸の逍遙
十一時近き冬の長閑なる日光は寂びたる野
山一面に瀾漫し居ぬ。
此の中をわれはひとり暖かき日ざしを脊一
杯に浴びつゝ川堤を飯田の方へと逍遙し行
くなりき。
天龍はわれのすぐ横の杭迄漫々と圓き波を
打ちよせ悠々と音もなく流れつ。廣々とし
て透明なる川面を繊細なる諧調を持ちたる
水すういゝと圓き細長き凹みを淺く小さ
く穿ち行く——名にし負ふ急流の水もしか
すがに休むひまなき狂奔激越の高調に疲れ

果て川幅開けし此處暫の間はぐつたりと夢
見る如き態度を見せつゝ去り難き如くに流
れ行くなりけり。されども、波の動き方に
はどこともなく急流のそれと思はする所あ
り。後より川下の遠く淀む水聲何となく夢
の如くに聞え來つ。對岸には道路一つ隔て
たるうこより赭色の山屹然と根強く立ち上
り、更に、急斜を目にて追ひ行けば伊奈山
脈は誘明凛烈の空に劃然と鋭角線を彫せり
高く聳ね立ちたる山脈——黒き森——山裾
の溪流——山腹の白壁眼界一面水を打ちた
る如き朝の静寂の底にシーンとしつゝあり
き。「如何にもどこか外國らしきカラーあ
り」われはひとりかくの如きことを思ひつ
ゝ不可思議なる程靜かにして大なるあたり
を見廻すなりき。
われは何時か松林の小徑に入り居ぬ。しめ
つぼくして薄寒き空気の急にわれを取りま
く心地す。狐色せる下草にまとりて茨の赤
き實時々顔を出しつ。名も知れぬ小鳥の聲
チ、と頭上より緊張せる空気を通じて絶わ
すわれの耳にありき。數多の木立ちほろの
葉間より日光をチラ／＼とどの身又大地に
洩らしぬ。
.....(終り).....

○ある夕 横井 正風
晚鴉一聲鎮守の杜を掠めて茅舎を罩めし炊
煙は野らに耕す人の子に歸路を促すに似た
り、梅白き夕かな、淡き鎌の如き月は遠寺
の鐘に撞き出されて更に美なり。

和歌

偶成

白木 生
こぎ出でし學びの海の半がと思へばをしき
月日なりけり
今更に暮れ行く歳を惜めども月日の駒に關
守はなし
何となく涙ぐまるゝ夕べなり拾九の歳も暮
るゝかと思へば
年一づ愚なる身も加へたりあゝまた春を壽
ほかむかな

通信

學校及校及會記事

○學力試験 二月八九の兩日は本縣中等學
校生徒の學力試験の當日なりしが本校に於
ても三年級に對し英、數、法制經濟の三科目
に就て夫々試験を執行し答案は直ちに縣に

郵送せり

○紀元節 午前十時拜賀式舉行本日は紀元
の佳節に併せて憲法發布の記念日なるを以
て特に憲法發布當日の御勅語を捧讀し校長
の訓辭ありて閉式

○擊劍大會 紀元節式後直ちに講堂に於て
擊劍試合を開始せるが松原教士審判の下に
同部員五十餘名及び招待員宮越青年會員の
取組仕合あり福嶋警察署よりは西澤署長並
びに石壁部長の來場あり觀覽席は小學校生
徒其他にて充滿頗る盛會を極め午後四時散
會せり詳細は別項記事にあり

○鬼狩 二月十六日遠足部にては學校附
近境ヶ澤に於て鬼狩を催せるが本年は遂に
一匹の影をだに見ず已むなく陣地を撤し歸
校夫より例に依て寄宿舎食堂に於て肉鍋之
馳走あり一同食卓を共にして散會せり

擊劍部記事

夫れ國家盛衰の原因は青年の元氣消長の如
何に依るもの大なりとす即ち青年の元氣旺
盛ならんか國家は隆盛の域に進むこと明白
なりと雖も之に反して多數の青年輩にして
意氣沮喪せば其前途は必ずや慘たるものあ
らん我々校々友會擊劍部に於ては元氣の養成

心神の鍛鍊体力増進の目的を以て一月二十
二日より寒稽古を開始し昨日に至り修了
せるを以て紀元節の佳節を卜し講堂に於て
進級仕合を兼ね大會を開催せり。午前十時
半部員一同講堂に集合し西澤顧問先生の開
會の辭に次で松原教士の訓辭あり終て本寒
稽古中皆勤せし者に對し七宮會長より皆勤
賞狀を授與せられたりとの人名左の如し。
丸山(嘉)、皆川、曾我、神原、鈴木、各
務、清水、内田、細窪、星加、月田、杉
山、(以上拾二名)
式終つて松原教士審判の下に仕合をなせ
り取組み勝敗左の如し。○は勝×は引分

- 1. 島田 2. 杉山 3. 細窪
4. 濱田 5. 伊藤 6. 大久保
7. 原川 8. 池田 9. 矢上
10. 下井 11. 丸山(林) 12. 唐村
13. 曾我 14. 長谷川 15. 藏田
16. 丹澤 17. 佐々木 18. 下平(佐)
19. 高橋(宮之越) 20. 清水(宮之越)

○21。長谷川(宮之越)青年會
○22。高橋(宮之越)青年會
○23。原(宮之越)青年會
○24。長谷川(宮之越)青年會
○25。高橋(宮之越)青年會
澤田(本校) 鳴澤(本校)

此他宮之越駐在巡查黒澤氏と本校生と數番の稽古仕合ありたり

三人拔優勝者
一年細窪友一郎君
一年土井薫君
二年藏田毅郎君
三年澤田富可君
飛入五人拔優勝者
澤田富可君

かくて午後三時半仕合を終へ顧問先生の閉會の辭ありて會散しぬ當日福嶋警察署員諸氏を招待したれ共折悪しく事務多忙の際とて來會せられざりしは遺憾なりき。さはあれ本日の試合は二句の練磨の技を發揮し刻下の精神に緊張を與へ得たるは吾人の深く信する所也。

會員諸君願くば多大の努力を傾注し吾部の前途をして校運と共に優秀盛大ならしめられん事を。
(二月十一日清水生記)

報 雜

會員の消息

○小林桂一郎君 野邊地小林區署在勤を命ぜらる

○松川久吉君 家事上の都合により上京せらる

○種倉隨藏君 朝鮮平壤歩兵第六十九聯隊第六中隊在營

○市川潔君 木會奈川村分擔區に轉任(昨年六月より)

○甲田林君 昨年末静岡縣磐田郡竜山村西川分擔區に轉任

○宮澤嘉一君 香川縣仲多度郡七個村小林區署に轉任

○久保田吾良君 公有林整理の爲め讀書三岳二村に出張せる序を以て母校を訪問せられたり

編輯餘錄

新春劈頭の本誌に於て北村先生の禁煙告白があり次いで誌上ではないが西澤先生の禁酒誓言があつた但し前者は今後絶對的の禁

止であるが後者は本年中といふ但書が付つてゐる借又吸ふ事飲む事の外に食ふ事をも一部禁止主義の方々が現はれて來た、ある先生は晝食を抜きにしてゐる、ある先生は朝食を廢してゐる其結果は何れも良好との事であるが併しまた試験中に屬するものが愈々春にでもなつて山へ實習に出かけるやうになればどうであらうか、繼續は六ヶ敷からうどの評判だ。本年は寒の中は近年稀らしき記録破りの暖かさであつたに拘はず却て風邪に冒されたものが多かつたのは、どういふ理由か、我が校の先生方も大抵に御見舞を受け中には御家族全部枕を並べられた方もあるた子さん方は麻疹の方もあつたが更に寄宿生など一室に大概二三名の感冒者があつて居たのは之も近年の記録破りといふべきである

大正五年二月廿三日印刷
大正五年二月廿五日發行

編纂兼發行人 安井正夫
長野市西後町丙二十一番地
印刷者 田中彌助
長野市西後町乙二十一番地
印刷所 長野新聞社活版部
發行所 長野縣西筑摩郡福島町二八九番地
蘆澤書店